

【6月・2歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん（高月齢／男児／活発） （3歳2カ月／4月生まれ）	Bさん（高月齢／女児／活発） （3歳1カ月／5月生まれ）	Cさん（高月齢／男児／静か） （3歳0カ月／6月生まれ）	Dさん（高月齢／女児／静か） （2歳11カ月／7月生まれ）
子どもの姿	1. 保育者に誘われてトイレに行くと、排泄できることもある。 2. 砂場遊びに興味を持ち、「〇〇ちゃんもやる？」と友だちの名前を呼びながら、バケツやスコップを持って真似をして砂のケーキ作りを楽しむ姿が見られる。 3. 自宅では好きな絵本を自分で選んで保護者に「よんで」と持っていくことが増えたと連絡帳に記載があった。	1. 特定の保育者との関わりの中で、安心して過ごす姿が見られるが、生活の流れに乗って行動することが難しい場面がある。 2. 保育者が仲立ちすることによって、友だちとの玩具の貸し借りの仕方が少しずつ身につけてきている。 3. 朝の登園時に保護者と離れる際、クラスに置いてあるぬいぐるみを抱きしめて気持ちを落ち着かせる様子が見られる。		
ねらい	1. 自分でトイレに行こうとする意欲を持つ 2. 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう	1. 安心できる保育者との関わりの中で、生活の流れに沿って行動しようとする 2. 友だちとのやりとりを通して、物の貸し借りの経験を積む		
内容	1. 排泄の感覚をとらえ、自分でトイレに行く。 2. 好きな遊びを通して、友だちとの関わりを楽しむ。	1. 保育者と一緒に活動の区切りを理解し、次の活動に移る。 2. 遊びの中で「貸して」「どうぞ」の言葉のやりとりを経験する。		
環境構成 配慮 援助	1. トイレに誘う時は「Aさん、おしっこ出そうかな？行ってみる？」と優しく声をかけ、自分から「行く」と言った時には「自分で言えたね」と認め、排泄後も「できたね！」と具体的に褒める。トイレが混み合う時間を避け、落ち着いて排泄できるよう時間をずらす等の配慮をする。 2. 砂場では「Aさんのケーキ、おいしそうだね」「友だちのケーキと並べてみようか」等声をかけ、友だちとの関わりを仲介する。砂遊び道具は十分な数を用意し、取り合いになった時は「貸してって言うてみようか」「Aさんが使い終わったら貸してあげようね」等、言葉でのやりとりを促す援助をする。	1. 活動の切り替え時には、事前に「あと少しで片付けの時間だよ」と予告し、本児の気持ちの準備ができるよう配慮する。切り替えが難しい時は無理強いせず、気持ちを受け止めながら徐々に促していく。 2. 友だちとのやりとりが生まれやすいよう、本児が好きな玩具を複数用意し、「〇〇さんにも貸してあげられるかな？」「どうぞって言うてみようか」等具体的に言葉を添えて援助する。貸し借りができた時は「優しいね、貸してくれてありがとう」「ありがとう」って言えたね」等肯定的な言葉をかけ、友だちとの関わりが心地よい経験となるよう仲立ちする。		
食事	・苦手な野菜も「一口だけ」と声をかけると挑戦する姿が見られる。 ・スプーンの持ち方を時々確認しながら「上手に持ってるね」と伝え、最後まで自分で食べようとする意欲を認める。	・苦手な野菜も保育者が「一緒に食べてみようか」と声をかけると挑戦する姿が見られるようになってきた。 ・まだスプーンの持ち方が安定しないこともあるが、「こうやって持つといいよ」と伝えると真似をして持ち直そうとする。		
家庭との連携	3. 絵本の読み聞かせの時間が増えているという家庭からの情報を受け、園でも本児の好きな絵本を意図的に読む機会を作り、家庭と園で一貫した関わりを大切にしている。 ・梅雨時期の体調管理について伝え、特に本児が好きな外遊びができない日の過ごし方を家庭と共有していく。	3. 家庭で愛着のあるぬいぐるみが園での分離不安の軽減に役立っていることを共有し、必要に応じて家からのお気に入りアイテムの持参について相談する。 ・園での「貸して」「どうぞ」のやりとりが増えていることを伝え、家庭でも兄弟やお友だちとの遊びの中で同様の経験ができるよう提案する。		
評価・反省	1. トイレに自分から行くことが増え、「できた」と自信につながっている様子が見られた。今後も無理強いせず、本児の意欲を大切にしながら、排泄の自立に向けた援助を継続していく。 2. 砂場遊びでは特定の友だちの名前を呼ぶようになり、同じ場所で遊ぶ姿が見られた。まだ道具の貸し借り等でトラブルになることもあるため、友だちとの関わりの中介役として保育者が言葉かけをしながら、友だちと遊ぶ楽しさをさらに感じられるよう関わっていききたい。	1. 特定の保育者との信頼関係をベースに安心して過ごすことができてはいるが、活動の切り替えについてはまだ難しさが見られる。予告の仕方や具体的な関わり方を工夫し、本児が見通しを持って行動できるように援助していきたい。 2. 友だちとの関わりでは、「貸して」の言葉を使えるようになり、コミュニケーションの第一歩を踏み出している。しかし、自分の物を貸すことにはまだ抵抗感があるため、無理強いせず、貸し借りの楽しさが感じられるような場面を意図的に作っていききたい。		

無料版：2名分  
↓  
有料版の  
"おまもりプラス"  
は12名分が  
閲覧&DL可能！

子どもの姿の1, 2は『ねらい/内容/環境構成・配慮・援助/評価・反省』、3は『家庭との連携』と運動しています。  
敬称と性別表記：ウェブサイトにて当社方針を記載しております。

# ほいくのおまもり **Plus!**

## ダウンロードのお礼とおまもりプラスについて

この度は個人案をダウンロードいただき、ありがとうございます！

ほいくのおまもりプラスでは、**性別／タイプ別／月齢別の12名分の個人案（0,1,2歳児）**をご用意しています。更に・・・

- **無料版の2倍の月案文例**
- 丸1ヶ月分の月～金の全ての週案
- 毎月45個の製作型紙
- 毎月2つのスケッチブックシアター
- その他、会員だけのコンテンツ

これだけ揃って、**月額980円+税**の大特価！気になる人は、以下からおまもりプラスのサービスを確かめてみてくださいね。



## 文例ご利用時の注意事項

- 提供される文例は、一般的なケースを想定して作成されています。ご自身の具体的な状況やニーズに合わせて適宜修正を加えてご利用ください。
- 文例の利用によって生じたいかなる結果についても、当サービスは責任を負いかねます。自己責任においてご使用ください。
- 文例は参考としてのみご利用いただき、直接のコピー＆ペーストではなく、ご自身の言葉で表現を加えることをお勧めします。
- 法的な文書や重要な契約に関する文面は、専門家のアドバイスを受けて作成することをお勧めします。
- 文例の著作権は当サービスに帰属しています。無断での再配布や商用利用はご遠慮ください。